

# 丹 邱 学 舎



令和2年9月9日(水)発行 校長 川崎 朗

志をもち、自ら学び、共に高め合い、遅く生き抜く西溪っ子の育成

りくりよくきょうしん

## 「戮力協心」のスローガンのもと、全力を尽くしましょう!

先週末からの台風第10号は非常に大きな勢力で、九州全体に大きな被害をもたらしました。佐賀県内でもすべての小中、義務教育学校が臨時休校となりました。本校でも木が折れたり、門扉がずれたりする被害はありましたが、幸い大きな被害はありませんでした。保護者の皆様におかれましてはいかがだったでしょうか?今回の台風で被害を受けられた皆様に対しましては心からお見舞い申し上げます。

さて、台風が過ぎ、一転しての晴天の中、9月19日(土)に開催します体育大会に向けての練習がスタートしました。昨日は、結団式を行い、私から青团田淵和志団長、岡田一真副団長、赤団山口大心団長、大隈天聖副団長に団旗、応援団グッズを渡しました。

いよいよ本日からの8日間、体育大会に向けての練習や準備を行います。今年はコロナ

渦であるとともに、暑さも厳しく、熱中症対策を十分に行いながら進めていきます。保護者の皆様にも各家庭での健康管理や水分の準備など、ご協力いただくことも多くあると思いますのでよろしくお願ひします。本日の結団式での私の話を紹介します。



＜赤団、青团の応援練習のようす＞

本年度体育大会スローガンは「戮力協心りくりよくきょうしん」～チームで助け合い、楽しみながら、最後まであきらめない体育大会にしようです!

これは、昨年11月に西溪会長選挙のときに梶原会長が出したスローガン「学年にとられることなく、みんなで楽しめる学校づくり」を踏まえたものであり、西溪会スローガン「ONE TEAM」を実現させるためにも重要なものだと思います。

各団や学級で助け合い、楽しみながら、結果に関係なく最後の最後まであきらめないで、みんなが一生懸命に全力で競技できる体育大会にしてください。

私から、すべてのみなさんに一つだけお願いがあります。それは「参加者全員が楽しかったと思える体育大会にする」です。この中には体育大会を楽しみにしている人もいれば、運動が苦手で、内心嫌だなあとと思っている人もいるかもしれません。

苦手な人も含めたすべての人が楽しかったと思える体育大会にしてください。そのために、周りを見て気を配ったり、言葉をかけたりしてください。

そして、競技だけでなくいろいろな役割でがんばったり、当日だけでなく準備の段階で活躍することも多くあると思います。その一つ一つを大切に、すべての児童生徒が楽しかったと思えるそんな体育大会になる事を期待しています

## 9年生は修学旅行に行ってきました!!

8月26日(水)から二泊三日の日程で、広島・山口方面への修学旅行に行ってきました。今回の修学旅行については全国的な新型コロナウイルスの感染拡大の問題もあり、学校としても大変悩みました。また、保護者の皆様にも大変ご心配をおかけすると共に、最終的には保護者に参加の有無を決定していただくというを行いました。このことについては、文部科学省から出されたガイドラインに従って行わせていただきましたが、保護者の皆様には大変苦渋の決断をお願いするということで、本当に心苦しく思っていました。また、修学旅行の中で感染リスクをできるだけ低くするよう、毎日3回の検温、マスク・フェイスシールドの着用、細かなアルコール洗浄の実施、三密を避けるなどの取り組みを行いました。結果、一人の体調不良もなく、無事に戻ってくることができ、心から安心しています。各見学場所での健康チェックや密にならないようにするなどのコロナ対策はきちんとしていました。逆にどこも見学者が少ない状況でした。特に広島の平和公園や平和資料館では、戦争と平和についてしっかりと学ぶことができ、貴重な機会となりました。

下に平和集会で生徒が行った平和宣言を紹介します。是非一読してください。

### 平和宣言（令和2年8月26日広島平和公園にて）

広島と長崎の悲劇を繰り返してはいけません。唯一の戦争被爆国として「核兵器のない世界」の実現に向けた努力をたゆまず続けることは、令和の時代にも変わることのない日本の使命です。私たちは新しい時代を平和で希望に満ちあふれた時代にしなければいけないと考えます。

被爆者は訴えます。「戦争は忘れることのできない特別なもの」だと。私たちは大切なものを奪われた被爆者の魂の叫びを受け止め、次の世代や世界中の人たちに伝え続けたいです。「悲惨な過去」を「悲惨な過去」のままに終わらせないために。二度と戦争を起こさない未来にするために。

国や文化や歴史、違いはたくさんあるけれど、大切なもの、大切な人を思う気持ちは同じです。

認め合い許し合うこと、寄り添い、助け合うこと、相手を知り、違いを理解しようと努力すること。自分の周りを平和にすることは、私たち中学生にもできることです。

「一人の人間の力は小さく弱くても、一人ひとりが平和を望むことで、戦争を起こそうとする力を食い止めることができると信じています」（中略）

私たちはもう一度、被爆者が世界人広めてきた重要なメッセージを思い出さなくてはなりません。

そして、の存続に向け、理想の世界を目指す必要があるのではないのでしょうか。

現代が抱える問題に背を向けることなく、平和で持続可能な世界を実現していくためには、私たち一人ひとりが立場や主張の違いを互いに乗り越え、理想を目指し、ともに努力するという「寛容」の心をもたなければなりません。

戦争を単なる過去の出来事としてとらえず、被爆者や平和な世界を目指す人たちの声や努力を自らのものとして、たゆむことなく前進し、核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、被爆地広島、長崎、そして思いを同じくする世界の人々と共に力を尽くすことを誓います。



< 平和公園での平和集会・厳島神社の見学・萩焼づくりのようす >